

道徳教育地域支援委託事業実施報告書（令和元年度）

1 学校の概要

- (1) 学校名 三豊市立詫間中学校
(2) 所在地 香川県三豊市詫間町詫間 5796番地 1
(3) 学年別児童生徒数及び学級数、教員数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援学級	児童生徒数計	教員
4学級 100名	3学級 93名	3学級 90名	2学級 5名	288名	28名

2 研究主題等

(1) 研究主題

豊かな心を育て、ともに未来を切り拓く道徳教育
— 人間としての生き方を考える道徳科の授業の工夫 —

(2) 研究主題設定の理由

道徳の教科化が始まった本年度、本校で四国小・中学校道徳教育研究大会が開催された。本校においては、平成28年度に「道徳プロジェクトチーム」を発足させた。平成28年度に全校生徒対象で実施したアンケート調査の結果、約3割の生徒が「道徳科の授業が好きか」の問に対して否定的な回答をした。その理由として、約半数の生徒が、「自分の考えを書いたり、意見を言ったりするのが苦手だから」と答えた。また、教師に対する意識調査においても、道徳科の授業に関する悩みや課題の多くが「発問」や「話し合い活動」に関するものであった。

以上の結果を踏まえて、平成29年度から「3つの道徳チーム」を編成し、全教員が学年の枠を超えていずれかのチームに所属し、学校全体で道徳教育を推進する体制を充実させてきた。その結果、道徳の時間の確保や校内指導体制が整い、道徳教育に対する教師の意識も高まってきた。

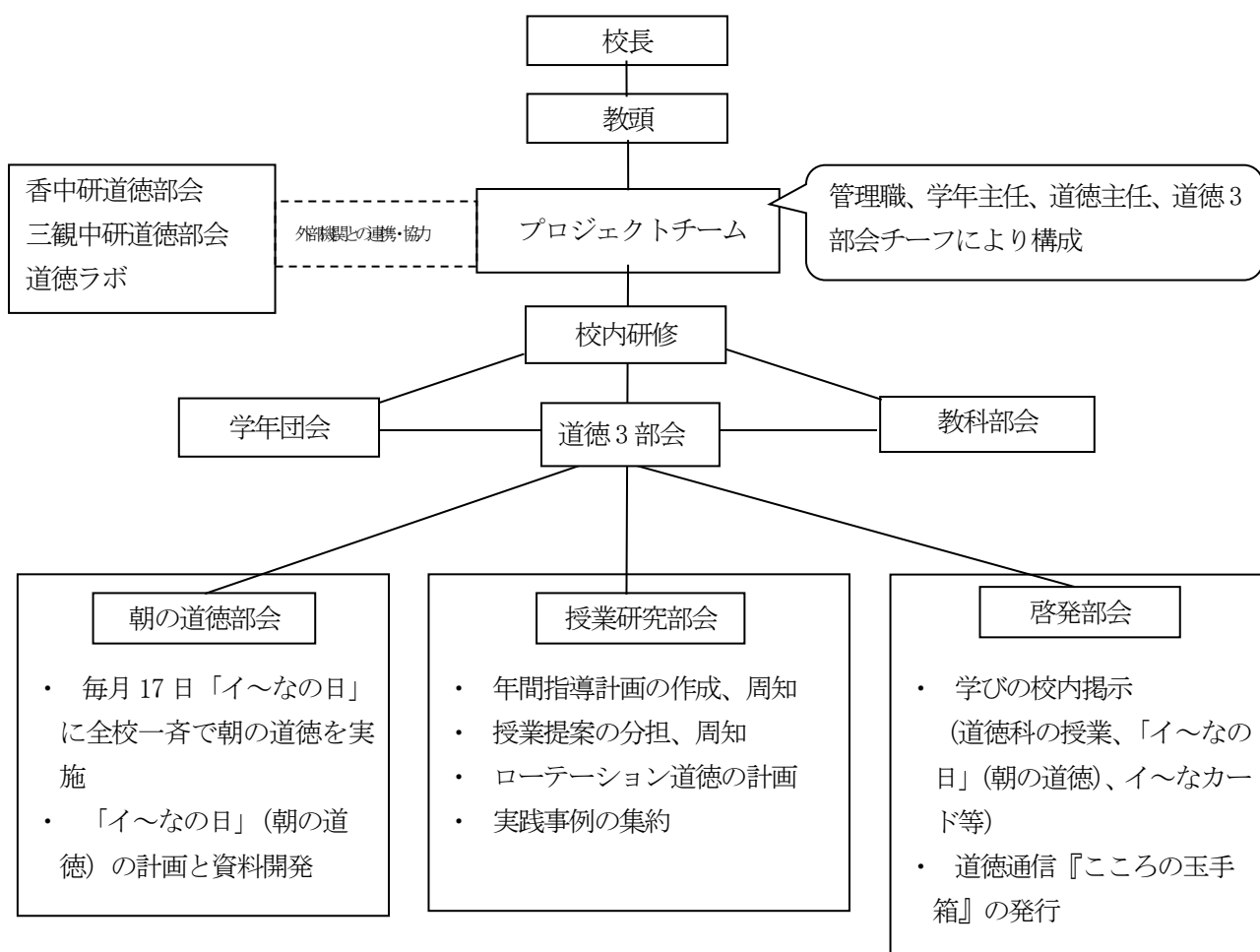
そこで、これまでの研究の成果を継続・進化させるために、道徳科の授業の質の向上を図ることとした。具体的には、道徳的価値について自分自身との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりできるように工夫し、生徒が人間としての生き方を考えることができる学習指導の在り方について研究を進めてきた。

(3) 研究内容及び方法

校内の「道徳プロジェクトチーム」及び「3つの道徳チーム」を中心として、学校全体で以下の研究を推進する。

- ① 道徳プロジェクトの会
- ② 全教員で取り組む道徳科の授業研究（校内研修・アンケートの実施）
- ③ 「朝の道徳」（イ〜なの日）の改善・充実と道徳通信や校内掲示による啓発
- ④ 自己を見つめ、問い直す「振り返り」の設定
- ⑤ 評価の工夫

○ 研究組織



3 研究実践

(1) 道德プロジェクトの会

毎週木曜日の4校時に、管理職、学年主任、道德主任、道德3部会各チーフの計9名で構成されたプロジェクトチームによる会を持った。

プロジェクトの会では、毎回各学年の道德授業の取組内容や道德の日の提案や協議などを行っている。また、研究主任が講師（香川大学：植田和也先生）から得た指導・助言をプロジェクトの会でメンバー全員で共通理解を図るとともに、次の授業実践に生かすようにした。

(2) 全教員で取り組む道德科の授業研究

一昨年度から、全教員で取り組む指導體制作りとして、全学年、同一時間に道德の時間（金4）を設定して、学年ごとに共通資料を用いたTTでの授業やローテーション授業を実施した。

各学年団とも、学年団全職員が自分が担当する授業の指導案を作成し、学年団会で事前打ち合わせをして共通理解を図った後、授業実践をしている。また、「教材開発チーム」のメンバーが、中心となって資料の作成、生徒の感想等の保存をしている。

○ 授業における学習方法の工夫



「役割演技」による
主体的に考える場の設定



「ウェビングマップ」による
多面的・多角的考えの可視化



「学習用ボード」による
個々の考えの整理・統合



「心情円盤」の活用による
考えの可視化と話し合い



「意思表示カード」による
自分の考えの表明や選択



「ネームカード」の活用による
立場の明確化

(3) 「朝の道徳」(イ～なの日)の改善・充実と道徳通信や校内掲示による啓発

「朝の道徳チーム」のメンバーが、資料の開発や見直しを行い、毎月17日(イ～なの日)、朝の会の時間に放送による読み聞かせを実施する。全校生が資料を見ながら放送を聞き、考えたことを振り返りシートに書くという取組を行っている。

「朝の道徳」の生徒の感想は、「道徳啓発チーム」が、道徳通信「こころの玉手箱」に掲載し、家庭で生徒と保護者が考えを深め合えるようにしている。また、毎月の「朝の道徳」の感想、毎週の授業の写真や感想を、各学年の貫通廊下に掲示するなどして、生徒や保護者への啓発を行っている。



【貫通廊下の掲示「イ～なの日」】



家庭からの返信欄

(4) 自己を見つめ、問い直す「振り返り」の設定

昨年度までは、ワークシートをファイルに綴じる方法をとっていたが、本年度より道徳ノートを作成し、1年間の道徳の学びを積み重ねていくことで、より確実な振り返りの時間を設けるようにした。

○ 道徳ノートを活用した3つの振り返りの時間

- ・ 授業の終末における振り返り

道徳ノートに明記された「道徳ノートの使い方」に基づいて、授業の終末における振り返りを「3つの書く視点を提示した上で行った。

【道徳ノートの使い方】

第 回 道徳	教材名	月 日
---------------	-----	-----

1 自分の考えを書きましょう

2 自分の考えを書いて、友達と話し合ってみましょう。

- ★ なぜそう考えたか『理由』も伝えて話し合いを深めましょう。
- ★ 「本当にそれでいいの?」「他にはないかな?」という『クリティカルシンキング』も大切にしましょう。

メモ

- ★ 友達の考えを聞いて「なるほど」と思ったこと
参考になった言葉があれば短い言葉でメモしましょう。

3 今日授業を通して感じたこと・考えたことを書きましょう。

- ★ 新たな発見をしたり、考えが深まったりしたこと
- ★ 自分と重ね合わせて考えたこと
- ★ これからの生活に生かしていきたいこと

などについて書きましょう。

今日の授業を振り返って・・・	はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいい	いいえ
1 今日の授業は心に響いた。(心に残った・心が動いた)				
2 自分のこととつなげて考えた。				
3 友達の考えを聞いて、なるほどと思ったり新しい発見があったりした。				
4 学んだことをこれから大切にしたいと感じた。				

**1～4のそれぞれについて
あてまるものに○をかきましょう**

- ・ 半年ごとの振り返り（前期、後期の年2回）

前期・後期ごとに今までの学習を振り返らせ、強く印象に残っている教材を3つ選び、その理由を書かしている。教科書の教材や道徳ノートに書き記した言葉を読み返すことで、自分自身の学びを振り返り、改めて道徳的価値を自分自身との関わりの中で考えられるようになった。

教材名	印象に残ったことを書きましょう。
母よりの年賀状	私もお母さんやお父さんに反抗してしまうことがあるけど、それでも親は愛情をもって育ててくれていることに改めて気づかされた。
余命ゼロ	渡部さんの講演の中の「そんな軽いならわたくしにくたさい」という言葉はとてまばに響きました。どんな状況におかされても自分の生きがいを見つけて進んでいく渡部さんのように強い人になりたいです。
群青の絆	どんな時でも友達がいたから乗り越えられたことはたくさんあります。群青色のようにきれいな心で最高の友情で最後みんなが群青の絆で結ばれようって歌いました。

2. 授業の自己評価をしてみよう!

1 資料を読み、登場人物の気持ちや立場を考えることができましたか。	(A)	B	C
2 友達の考えを聞くことができましたか。	(A)	B	C
3 資料を通して、自分の生き方について考えることができましたか。	(A)	B	C

3. 後期に学習した授業の感想を書きましょう。

真の友情についてや家族の大切さなど、これから卒業して高校に入って社会に出たら私にとってとても素直に心に入ってくる授業ばかりでした。いつも自分の周りには大切な友達、大事な家族がいてからここまで成長できたのもそれを胸に頑張ってきたことだと思います。班活動もしっかりとできていい授業でした。

【振り返りシート】

- 1年間の振り返り
 - 道徳ノートに「見つめよう」のページを設け、4月に「今の自分」、3月に「これからの自分」について自由に記述させることで、1年間の成長を振り返らせるようにした。

「見つめよう」

今の自分

今していること *どんな大人になりたい? 将来の夢は? など

私は、思いやりのあり、任されたことはすべて完璧にやりとげ入から信頼される大人になりたいです。また、将来「薬剤師」になりたいです。

今の私の嫌なところは、周りの人に声をかけるときに、何を話したらいいのか分からなくなってしまうところです。声をかけたけど話が続かないというところをなおしたいです。

私は、部活で「パーカッション」と「オーボエ」に夢中になっています。

（現在まよってまよって環境が少し変わるけど、うまくいこうにかんがっています）

これからの自分

【1年間の振り返り】

(5) 評価の工夫

道徳ノートをもとにした学びの記録の蓄積を授業改善と評価に生かすため、主として3つの記録を残した。

- 道徳ノートの記述と自己評価
 - 毎時間同じ視点で4件法を用いた自己評価をすることで、授業への姿勢や取り組み方を知るだけでなく、個々の変容を見取るようにした。

- 学びの大きかった授業

「印象に残った教材とその理由」を、前期・後期の振り返りシートに記入させた。それぞれの理由から、個々の生徒にとって学びが大きかったか授業を理解する手がかりを得た。

- 教師による授業記録

毎時間、授業者以外の教師が、数名の生徒の様子について気付いたことを「授業記録用紙」に記録した。教材名、内容項目、発問に加えて、場面ごとにどのような反応や発言があったかを、4つの視点で記録した。記録を残した生徒については、名前を名簿に印をつけることで、見取りに偏りが生じないように配慮した。また、授業後に道德ノートや板書の写真を見返し、記録を加えることで次時の授業を改善するようにした。

- | | |
|-----------|------------------------------|
| 視点 | 1 自分との関わりの中で道徳的価値の理解を深めている。 |
| | 2 多面的・多角的に思考している。新しい発見をしている。 |
| | 3 生き方について考えを深めている。 |
| | 4 意欲的に活動している。 |



【道德ノート】



【授業記録ファイル】

授業記録(3-2)		授業者()	記録者()
第 回	教材名 母よりの年賀状	内容項目 C-(14) 家族愛、家庭生活の充実	
発問 1㊦ 母からの年賀状を読んだ「わたし」は、どうして立ち直ることができたのだろう。 2㊦ 手紙のどの部分からそう感じたのか。		視点 1 自分との関わりの中で価値理解を深めている 2 多面的・多角的に思考している・新しい発見をしている 3 生き方について考えを深めている 4 意欲的に活動している 5 その他	
番号	名前	場面	コメント(反応・発言)
		Ⓐ 個人思考 B ペア C グループ D 全体 E 振り返り F その他	自分と照らしあわせながら 自分も愛情をもつて育ててくれると発言した 1
		A 個人思考 B ペア Ⓒ グループ D 全体 E 振り返り F その他	人の意見と聞いて うはつきりかた ワークシートに自分の意見を書いた 4
		A 個人思考 B ペア Ⓒ グループ D 全体 E 振り返り F その他	人の意見と聞いて ありがとうと感謝したことか、そりではなく親に感謝(よくと)話していた。 1・2

【「母よりの年賀状」見取り例】

- 評価文(通知表)の作成

評価文の作成に向けて、最初に「毎時間の自己評価」と「前期・後期の振り返りシート」を基に、その生徒にとって心に響いた、または生徒が活躍した授業を焦点化した。次に、道德ノートからその時間の授業記録を読み直し、振り返りシートと道德ノートからその生徒が特に学んだことや新たに気付いたこと、これからの生き方について考えたこと等について自分なりの言葉で表現している部分に注目して評価文を作成した。その際、「授業記録用紙」も参考にすることで、生徒自身が気付いていない成長を認め、励ます評価文となるようにした。

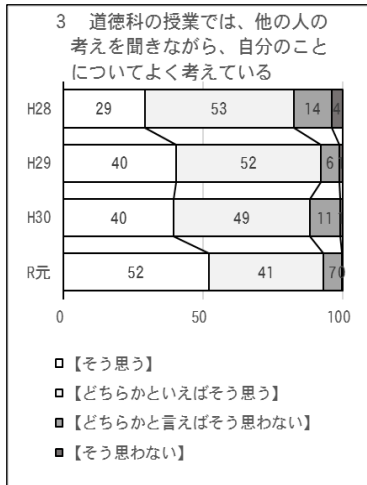
4 研究の成果と課題

(1) 成果

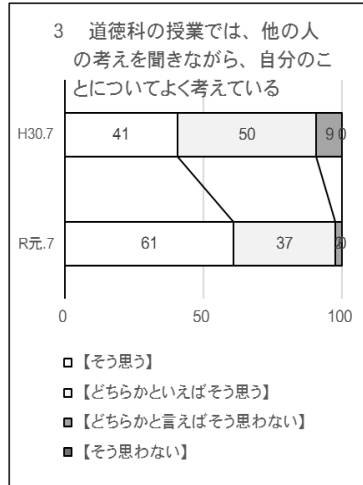
① 生徒による道徳科の授業に関する意識調査の結果から

全校生徒対象で実施した意識調査では、平成 28 年度から本年度まで、ほぼ全ての問いに対して肯定的な回答の割合が増加した。なかでも現 3 年生は、「他の人の考えを聞きながら、自分のことについてよく考えている」の問いに対して、昨年度より「そう思う」と回答した生徒が 20%増加し、98%の生徒が肯定的な回答をした。

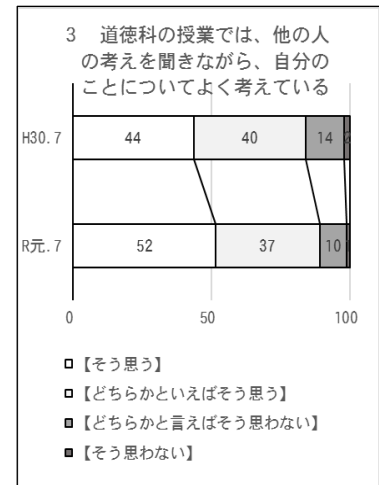
また、「道徳科の授業で楽しいと感じるのはどんなときですか」という問いに対して、以前は「映像資料を見て考えるとき」が最も多かったが、現在は「話し合いをしているとき」と答える生徒が最も多くなった。



全校生徒の変容
(H28 年～R元年)



現 3 年生の変容
(H30 年 7 月～R元年 7 月)



現 2 年生の変容
(H30 年 7 月～R元年 7 月)

② 教師による意識調査の結果から

教師に対する意識調査の中で、最も生徒の変容を感じる場面と回答したのが、「自分を振り返ったり、自分とつなげて考えたりする生徒や本音で語ったりする生徒が増えた」「話し合いの際に、『どうして?』『本当に?』といった考えを深めるつぶやきが見られるようになった」であった。

このことは、本年度より取り組んでいる「道徳ノート」や「教師による 4 つの視点の授業記録」の積み重ねによって、道徳科の評価が目指す 2 つの側面 (①生徒が自らの成長を実感し、意欲を向上させることができる評価、②教師が指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むことができる評価) ができていることが、生徒の変容としてあらわれたものであると考える。また、年間 35 時間の確実な授業実施、道徳 3 部会や学年団などの協力体制の強化、そして、何より教師一人一人の意識の向上が、このような生徒の変容を支えてきたと考える。

(2) 今後の課題

「考え、話し合う」習慣は身に付いてきたが、十分に「対話する (考え、議論する)」までには至っていないのが現状である。今後更なる授業力の向上を目指し、実践を重ねるとともに、評価のあり方を検討し、その妥当性・信頼性を高めていく必要があると考える。そして、今後も研究体制を継続し、目の前の生徒の実態を常に把握しながら、生徒とともに道徳教育を進めていきたい。